

国保連合会 News!!

国保くまもと Vol.238 (2020年1月号)

保健事業を取り巻く情勢と実践

★令和元年 11月 28日

第3回データヘルス計画の効果的な実施に向けた学習会

火の国ハイツにおいて、本会主催のもと「第3回データヘルス計画の効果的な実施に向けた学習会」を開催し、県内保険者の国保及び保健事業担当課の管理職、事務職及び保健師・栄養士等の専門職合わせて215人が参加した。

今年度最後となる本学習会も、現在、市町村や国保連合会における保健事業の指導者として全国的に活躍されている熊谷勝子氏を講師に迎え、現在の国の動き（情勢）を押さえながら資料を基に学習した。

講師からは、後期高齢者の医療費、介護給付費が増えている現状や、熊本県の第7期介護保険料の伸び率が全国1位だったことにも触れられ、来年度から本格実施となる「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」の意義とポイントについて説明があった。

また、フレイル^{*}の予防やフレイルになりやすい疾患と生活習慣病の重なりなど実際に熊本県内の市町村の事例を使用した講義の他、心不全のプロセスやステージ毎のリスク管理について学習し、生活習慣病の重症化予防が介護予防に繋がることを再確認した。

※ 「フレイル」とは、『加齢に伴う予備能力低下のため、ストレスに対する回復力が低下した状態』を表す。また、要介護状態に至る前段階として位置づけられるが、身体的脆弱性のみならず精神心理的脆弱性や社会的脆弱性などの多面的な問題を抱えやすく、自立障害や死亡を含む健康障害を招きやすいハイリスク状態を意味する。



学習会の様子